

倉庫物流のダイワコーポレーション 県内高校生を採用

曾根社長「倉庫展開も計画」

倉庫物流業のダイワコーポレーション(東京、曾根和光社長)は5日、来春卒業予定の県内高校生の採用内定式を那覇市内のホテルで開いた。同社は県の物流高度化推進事業に採択された2014年度以降、県酒造組合と連携して泡盛の首都圏販売で流通効率化や販路開拓の支援を担っている。曾根社長は今後の計画として、沖縄での倉庫展開も検討していると明らかにした。



採用内定式であいさつする高校生ら
115日、那覇市のANAクラウン
プラザホテル沖縄ハーバービュー



曾根和光社長

合効率化法の認定を受ければ市街化調整区域でも物流施設を建設する許可が得られる」と事業展開の手法を説明した上で、県内の製造・卸売業者に倉庫を中心とした物流改善を提案していく考えを示した。

同社は前年度から県内高校生の職場体験も受け入れており、曾根社長は「泡盛の物流効率化に関係が深まる中、人材についても沖縄での募集に至った。将来、

沖縄で働く物流のプロを育成することも目指したい」と述べた。

採用内定式では4月から東京で働くことに決まった高校生6人が登壇し、照屋恭介さん(沖縄工業高情報電子科3年)は「卓球部長として培った忍耐力と協調性を生かして精進していきたい」と抱負を述べた。

泡盛業界では各酒造所が単独で県外へ出荷・販売しているが、同社は複数のメーカーの商品を集約してコンテナに混載し、首都圏への船舶輸送や物流センターでの在庫管理を共同利用することで経費を抑制する物流モデルを提案・構築してきた。同事業は温室効果ガスの削減効果も評価され、16年に国土交通省のグリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受けている。